

令和 6 年度第 1 回市民力推進委員会 会議録

日 時 令和 6 年 8 月 27 日（火）18：30～20：30
場 所 長崎市役所 7 階 記者会見室兼中会議室
出席者 委 員 長 山口純哉
委 員
井上勝明、岩本諭、梅川健治、江口忠宏、柿田多佳子、貴戸淳二、林田英昭、
稗圃健史、平山智秀、松尾博之、松下隆、水畑順作、宮崎真奈美、吉田伸吾（敬称略）
事 務 局 宮崎忠彦 宮本康宏 印藤真哉、川口育美、野中誉仁、原田宏子、御厨良雄

次 第

- 1 委員長・副委員長の選出について
- 2 審査部会員の選出について
- 3 委員自己紹介
- 4 事業概要、市民活動センター及び登録団体について
- 5 市民協働推進室の取り組みについて

事務連絡等

令和6年度第1回 市民力推進委員会会議概要

日時：令和6年8月27日（火）18：30～20：30

場所：長崎市役所7階 記者会見室兼中会議室

出席者：

市民力推進委員会委員：

山口純哉委員長

井上勝明委員、岩本諭委員、梅川健治委員、江口忠宏委員、柿田多佳子委員、貴戸淳二委員、
林田英昭委員、稗圃健史委員、平山智秀委員、松尾博之委員、松下降委員、水畑順作委員、
宮崎真奈美委員、吉田伸吾委員

事務局：宮崎市民生活委部長、宮本市民生活部理事、印藤市民協働推進室長、川口市民協働推進係長、
野中、原田、御厨

－ 会議概要 －

1 委員長・副委員長の選出について

委員の互選により、山口純哉委員を委員長、江口忠宏委員を副委員長に選出

2 審査部会員の選出について

～事務局から審査部会の設置について説明～

【委員長】

審査部会の設置について、異議等はあるか

⇒異議なし

審査部会員については、委員長が以下の委員を指名。

審査部会：井上 勝明委員

上野 美也子委員

江口 忠宏委員

林田 英昭委員

松尾 博之委員

水畑 順作委員 （以上6名）

3 委員自己紹介

各委員1分で自己紹介を実施

4 事業概要、市民活動センター及び登録団体について

～事務局から資料をもとに説明～

質疑応答

⇒特になし

5 市民協働推進室の取り組みについて

～事務局から資料をもとに説明～

質疑応答

【委員】

ヒアリングはすごくいい機会だった。学生たちには熱意もアイデアもある。こういった学生の力を活かし、若い子たちの声を取り入れた取り組みをしていただければと思う。

提案型協働事業を2年間続けてその後が見える化できるかがカギ。提案型は非常にエネルギーを使うので、その後の成功例が見えればいい。

【事務局】

提案型協働事業の成功例としてはDV防止ながさきさん、教育委員会や人権男女共同参画室と組んで現在も取り組んでいる。

また、エコネットも環境系のみならずいろんな団体が組むことで、現在もイベントの中心となっている。

【委員】

今回3期目でやるべきことが明確になってよかった。企業のCSR※¹を巻き込むことについて、地場企業さんに声をかけていくような形になるかと思う。その中で企業あてに説明するドキュメントはつくっているか。

【事務局】

資料としては、提案型協働事業で作っていく動画が一つの材料になるのかなと思っているが、現時点では資料はない。まだ、どのくらいの企業さんが興味を持っているかなども分からないため、こういったものを活用しながらマッチングしていければと考えている。

【委員】

環境系の取り組みは、長崎支社や長崎支店の企業のある所では積極的な印象がある。また、市役所に出入りしている業者などに取り組みのチラシを配るなどすると面白いかなと思う。

【委員】

以前委員をしていた時は、市民活動センターの指定管理者制度導入については議論していたかと思う。市民力推進委員会の議題は定期的に変わっているものなのか、なにか定期的に議論するものがあるのか。

【事務局】

今は補助金の見直しを課題と考えている。指定管理については、今2期目のタイミングであるため、次は3期目のタイミングでご相談させていただくこともあるかと思う。時期によって議題は変わっていく。

【事務局】

基本的な命題としては、市民力を上げるというのが根幹にある。

【委員長】

市民協働推進室は、市民力に関する事業を持っていない。全庁的に横串を刺してそれぞれの課で協働に取り組むことをミッションにしており、商業や観光分野などとは違いこちら側でコントロールができないところがある。

また、総合計画の中で市民力推進の項目の中で評価を受けている。本来であれば市民力推進委員会で長崎市の市民力推進を定点観測するものなのかなと思うが、総合計画の方で評価を受けているのが実態。そのため、市民力推進委員会ではある種手段の議論になってしまうというところはあるかと思う。

補助金の見直しもそうだが、もっと大きな市の指針などの見直しなど今後取り組んでいってもいいのかなと個人的には思っている。

【委員】

若者まちづくりチャレンジ補助金の応募状況はどうか。

【事務局】

相談はあっているが、募集はまだない。

【委員】

今後の流れについての確認だが、補助金の見直しの議論になるのか、サポート・支援の提案をするのかという方向性で進めていくのか。

【事務局】

補助金というより経済的支援の見直しというのが正しいかもしれない。補助金に限らず、物品の支援などそういったものも含めて、補助金に限らず検討を進めていきたいと考えている。

【委員】

最終的なミッション、ゴールについて、いつまでにどうするかなどの工程表がないため、イメージがわきにくいかなと思う。市民力推進委員会にはいろんな立場の方がおられるので、共通認識を持つためにも時期などを明確にした資料を準備した方がいいと思う。

【事務局】

次回の会議の際に準備したい。

【委員】

市役所の立場として、そもそも市民力をどう考えているか。

また志縁団体を支援すると言われていた。志縁団体が5年後10年後市としてどうなってほしいか、次の議論までにある程度示していただければ議論もしやすいのかなと思う。

【事務局】

市民が自主的・自発的に地域課題の克服に取り組もうとする力と定義している。

【委員】

もう少し具体的なイメージをご提示いただければわかりやすくなるかと思う。

【委員長】

市民力の定義は分かったとして、それが今どういう状況にあるのか、それをどういった形で引き上げるか、どういう姿になってほしいのか。企業などと連携して経営資源を補い合って目標に向かって走れるようにしたいのか、自分たちで採算がとれるように取り組んでいけるようにしたいのか、それは千差万別ではあるがそこが見えてくると皆さんイメージがわきやすくなるかと思う。

【委員長】

今後、企業CSRを検討するという話が合った。日本の企業のCSRは慈善事業のイメージが強い。本業に近いいわゆるCSV※2の考え方の取り組みであれば長続きしやすい。その企業が社会に対してどういう問題意識を持っているのかもヒアリングしていただきたい。

【事務局】

なかなか飛び込みでは難しいため、委員の皆さんの方と一緒にいろんな企業さんに訪問させていただければと思う。

※1 CSR…《corporate social responsibility》収益を上げ配当を維持し、法令を遵守するだけでなく、人権に配慮した適正な雇用・労働条件、消費者への適切な対応、環境問題への配慮、地域社会への貢献を行うなど、企業が市民として果たすべき責任をいう。企業の社会的責任。(出典：デジタル大辞泉(小学館))

※2 CSV…《creating shared value》企業が本業を通じ、企業の利益と社会的課題の解決を両立させることによって社会貢献を目指すという、企業の経営理念。2011年に米国の経営学者マイケル・ポーターが提唱。CSR(企業の社会的責任)よりさらに踏み込み、より直接的に課題の解決を図ることで、企業価値の向上を目指す。共通価値創造。共有価値創造。価値共創。クリエーティングシェアードバリュー。(出典：デジタル大辞泉(小学館))